大豆・麦の生育と管理

令和 8年１１月号
大分県北部振興局生産流通部地域営農・水田活用第一・二班

●大豆　収穫時のポイント

◆ 汚損粒対策

次の4つのポイントを徹底し、丁寧な収穫作業を心がけてください。

①収穫前の青立ち株や雑草の抜き取り

収穫前に必ず手取り除草を行い、ほ場の外へ持ち出してください。

②適期収穫

収穫適期の目安は、茎が灰黒色になり、莢を振るとカラカラと音が鳴り、地際部の茎が手でポキッと折れる時期です。

・収穫時期が早い：茎汁等による汚損粒や損傷粒が発生。
・収穫時期が遅い：自然裂莢による損失の増加、降雨の影響によるシワ粒や腐敗粒発生の危険性が増す。

③収穫作業は１１時から１６時頃

朝露や夜露は汚損粒の原因となるため、朝夕の時間帯を避けてください。また、**前日が雨の場合は収穫を控えてください**。

④土の掻き込みに注意

土の掻き込みは汚損粒を発生させます。**刈取り高さの目安10cm以上**を必ず守ってください。土を掻き込んだ場合には、すぐに清掃してください。

●麦の管理

◆ 排水対策

・弾丸暗渠：深さ30～40㎝、間隔2～5mで施工し、排水対策を徹底してください。
・額縁排水：圃場の額縁に作溝し、地表水の排除を行ってください。

排水溝は必ず水の落とし口につないでください！

◆ 雑草対策～播種前～

播種前に雑草が発生している場合は、下記薬剤を散布してください。

薬剤名	使用時期	10aあたり使用量		使用方法
		薬量	希釈水量	
ラウンドアップ マックスロード	耕起前または播種前まで （雑草生育期）	200 ～ 500 mL	50 ～ 100 L	雑草茎葉散布

裏　面　へ

◆土づくり　酸度矯正 ～土壌診断で適切なpHに矯正～

酸性土壌では、生育不良や黄化症状が発生しやすくなり、収量が低下します。
最適なpH6.0～6.5にするために土壌診断を行い、苦土石灰等の土壌改良材を施用して適切な酸度矯正を行ってください。

◆施肥　《施肥基準（１０ａ当たり）》

●安定した収量・品質を得るために適切な量の施肥をお願いします。

	基肥		分げつ肥	穂肥	実肥
	化成肥料 14-14-14	麦一発 エムコート556	化成肥料 16-0-16		硫安
ハルアカネ		４５ kg			
	４０ kg		１５ kg	２０kg	
ニシノホシ チクゴイズミ		４５ kg			
	４０ kg		１５ kg	１５ kg	
はるみずき	４０ kg		１５ kg	３０ kg	３０ kg

●パン用はるみずき　**目標タンパク含有率：１３．５%以上**
穂肥・実肥はタンパク含有率を高める上で重要ですので、必ず施用してください。

●焼酎用ニシノホシ　**目標タンパク含有率：１２%以下**
タンパク含有率を高めないように、穂肥後は施肥しないでください。

◆ 種子消毒～斑葉病と黒穂病の防除～

斑葉病、裸黒穂病は種子伝染性病害です。
必ず種子消毒を行いましょう。

・斑葉病：株の枯死

・裸黒穂病：品質・収量低下


斑葉病


裸黒穂病

◆播種

播種適期は**１１月中下旬～１２月上旬**です。
・早播き：粒の充実不足・品質低下・凍霜害の危険性
・遅播き：初期生育不足により収量低下
播種深度は**３㎝**を目安としてください。

◆雑草対策 ～播種直後と生育期の体系防除～

雑草対策は初期除草剤、生育期除草剤、土入れの体系防除を徹底しましょう。

薬剤名	使用時期	10aあたり使用量		使用方法
		薬量	希釈水量	
リベレーターG 粒剤	播種後～麦２葉期 （雑草発生前～ イネ科雑草１葉期まで）	４ ～ ５ kg ※砕土は細かく	－	全面土壌散布
リベレーター フロアブル	播種後～麦３葉期 （雑草発生前～ イネ科雑草１葉期まで）	６０ ～ ８０ mL ※麦に対して白斑症状を引き起こす場合があります	１００ L	雑草茎葉散布 または 全面土壌散布

◆土づくり　酸度矯正 ～土壌診断で適切なpHに矯正～

酸性土壌では、生育不良や黄化症状が発生しやすくなり、収量が低下します。
最適なpH6.0～6.5にするために土壌診断を行い、苦土石灰等の土壌改良材を施用して適切な酸度矯正を行ってください。

◆施肥　《施肥基準（１０ａ当たり）》

●安定した収量・品質を得るために適切な量の施肥をお願いします。

	基肥		分げつ肥	穂肥	実肥
	麦一発 エムコート556	化成肥料 14-14-14	化成肥料 16-0-16		硫安
ハルアカネ	４５ kg				
		４０ kg	１５ kg	２０kg	
ニシノホシ チクゴイズミ	４５ kg				
		４０ kg	１５ kg	１５ kg	
はるみずき		４０ kg	１５ kg	３０ kg	３０ kg

●パン用はるみずき　**目標タンパク含有率：１３．５%以上**
穂肥・実肥はタンパク含有率を高める上で重要ですので、必ず施用してください。

●焼酎用ニシノホシ　**目標タンパク含有率：１２%以下**
タンパク含有率を高めないように、穂肥後は施肥しないでください。

◆ 種子消毒～斑葉病と黒穂病の防除～

斑葉病、裸黒穂病は種子伝染性病害です。
必ず種子消毒を行いましょう。

・斑葉病：株の枯死

・裸黒穂病：品質・収量低下


斑葉病


裸黒穂病

◆播種

播種適期は**１１月中下旬～１２月上旬**です。
・早播き：粒の充実不足・品質低下・凍霜害の危険性
・遅播き：初期生育不足により収量低下
播種深度は**３㎝**を目安としてください。

◆雑草対策 ～播種直後と生育期の体系防除～

雑草対策は初期除草剤、生育期除草剤、土入れの体系防除を徹底しましょう。

薬剤名	使用時期	10aあたり使用量		使用方法
		薬量	希釈水量	
リベレーターG 粒剤	播種後～麦２葉期 （雑草発生前～ イネ科雑草１葉期まで）	４ ～ ５ kg ※砕土は細かく	－	全面土壌散布
リベレーター フロアブル	播種後～麦３葉期 （雑草発生前～ イネ科雑草１葉期まで）	６０ ～ ８０ mL ※麦に対して白斑症状を引き起こす場合があります	１００ L	雑草茎葉散布 または 全面土壌散布